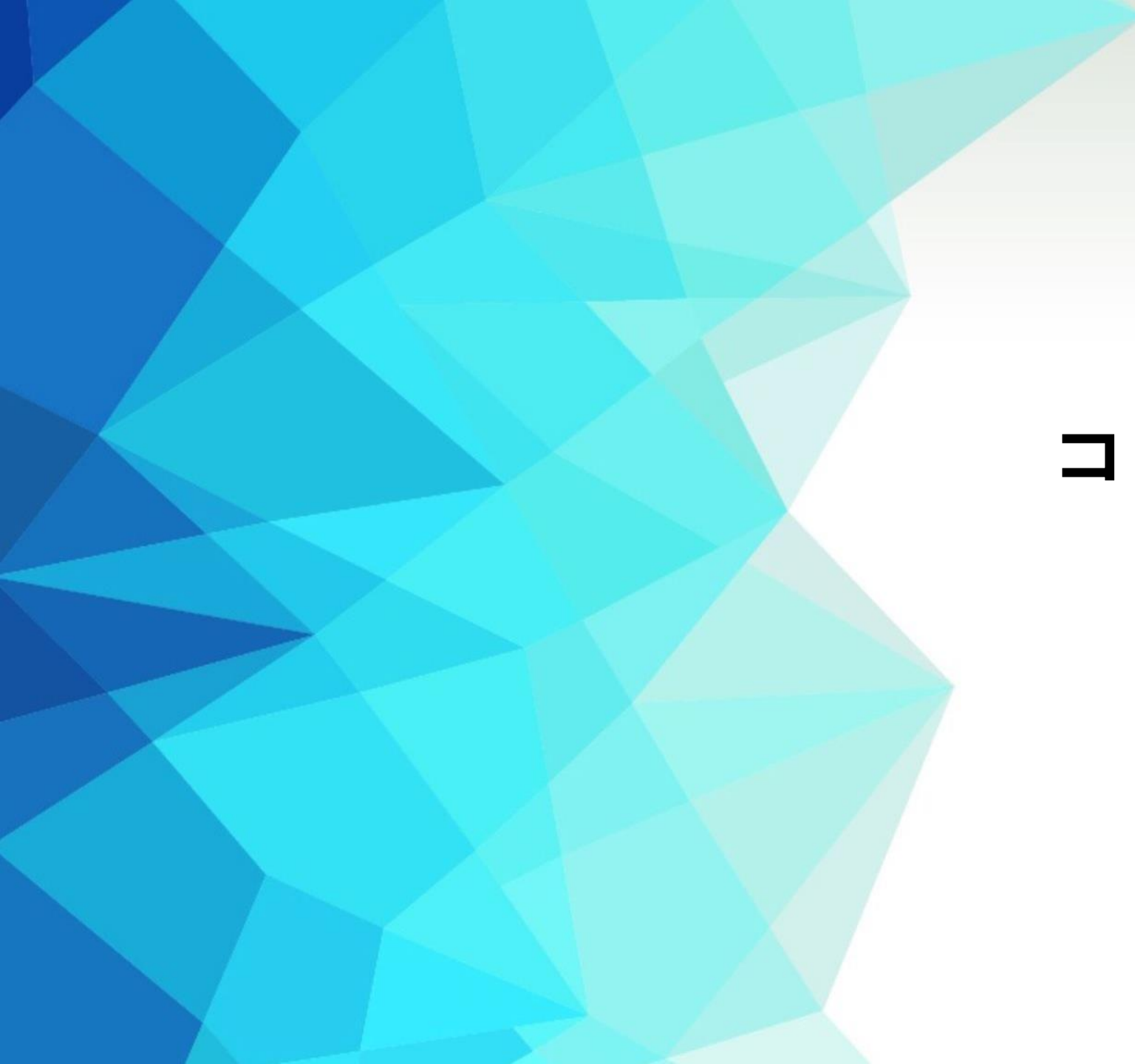




コロナ社会を撃つ

～岸和田JCの挑戦～

座学 その1

日本史で習わない銃の歴史

火縄銃の登場から江戸時代まで

- ・ 日本史における火縄銃の初めての登場。
- ・ 1543年 種子島に
ポルトガル人によって伝来。



- ・ 日本史において初めて
火縄銃が使用された合戦。

- ・ 1550年細川晴基と
三好長慶の間で洛中の戦いがあった。

- ・ 火縄銃を有効活用した武将で知られるのは織田信長ではないでしょうか。

- ・ 1575年

長篠の戦い（現在の愛知県新城市）では当時戦国最強と称された。

- ・ 武田騎馬軍団を

鉄砲3000丁の3段撃ちで撃破。

- ・その後、織田信長や豊臣秀吉の保護を受け
大坂の堺や近江の国友などは大発展を遂げる。

堺→**堺筒**（大阪府）

近江国→国友筒（滋賀県）

薩摩国→薩摩筒（鹿児島県）

- ・他にも阿波筒（徳島県）、紀州筒（和歌山県）

仙台筒（宮城県）など各地で発展を遂げる。

- 慶長5年（1600年9月15日）天下分け目の戦い
関ヶ原の戦いが開戦。

- 関ヶ原の戦いでは、
火縄銃から大型の大砲に至るまで
様々な火器が使われた。

- ・ 1603年、徳川家康が江戸に幕府を開き、日本を統治し始める。
- ・ そして慶長19年（1614年）の冬翌年の慶長20年（1615年）の夏に大坂の陣開戦。
- ・ その際にも火縄銃や大砲が活躍したのに加え真田幸村が短刀ほどの大きさの**馬上筒**と呼ばれる火縄銃を使用した。
- ・ 中でも大砲は圧倒的な火力を発揮し大坂の陣の終戦へ力を見せつけた。

- 江戸時代の幕開けが戦乱の時代が終わりを告げ、
平和が訪れたことにより火縄銃の発展は少し停滞。
- 第五代将軍の徳川綱吉が発令した諸国鉄砲改めにより
百姓の狩猟及び銃の原則所持禁止、
銃器の移動制限がされたこと鎖国による影響を受け
火縄銃の発展が停滞。
- 幕末期には新式の銃が渡来し模造したものも開発され、
国産品はあまり発展せず輸入した銃が普及した。

- ・【砲術】も大きく発展。

最盛期には400もの流派があった。

- ・稲富流→最も古い流派のひとつ

徳川家康、浅井長政、井伊直政などが学んだ。

- ・萩野流→萩野六兵衛安重が寛文期に始めた流派

各藩からの入門者が多く、江戸時代には最も流行した。

- 岸和田流→流祖は薩摩国の商人で、
豊後の国の猟師が鹿狩りをしている様子を見て、
練習し流派を起こした。
- 上杉景勝公の時代に**上杉家**で取り入れられたり
江戸時代以前より栄えた流派のひとつ。
- 読み方は【きのわだ】
読み方からわかるように、わが町岸和田との関係は、

一切ない

- 
- これはあまり知られていませんが、
岸和田藩でも火縄銃は製作がされていた。
 - 岸和田銃の銃身には、「泉岸住佐藤義定作」と
岸和田に実在した鉄砲鍛冶の名を刻まれている。

- この佐藤義定は『佐藤文吉郎義定』とされ、
明治元(1868)年10月に岸和田藩士によって
暗殺された鉄砲師佐藤文吉本人の可能性が高いとのこと。
- このお話は岸和田藩における尊王攘夷、お家騒動の
引き金となったと可能性もあり話が大いに脱線するので
気になる方はご自身で調べて下さい。

- ・ 1853年黒船来航ペリーによってアメリカ不平等条約締結
尊王攘夷運動が活発化

- ・ 1858年井伊直弼『安政の大獄』江戸幕府の権威は失墜。
反幕府思想が蔓延。さらに敵対していた。

- ・ 薩摩藩長州藩により薩長同盟が結ばれ倒幕思想が高まる。

- ・ 1867年第一五代将軍徳川慶喜 大政奉還

『王政復古の大号令』

江戸幕府終焉

- ・明治元年（1868年）

旧幕府軍の残党VS薩摩藩、長州藩を中心とした新政府軍

『戊辰戦争』薩摩藩、長州藩 **ミニエー銃** 主装備としていた。

ミニエー銃の射程距離は300ヤードにも及ぶ。

- ・対する旧幕府軍はゲベール銃と言われる性能の低い銃を主にしていた。
- ・戊辰戦争に勝利した新政府軍は天皇と拠点を東京へ移すなどあらたな国家を作り始める。

- ・ 1877年明治維新の立役者の一人である

西郷隆盛が先頭に立つ形となり西南戦争が起こる。

- ・ 西南戦争は明治維新が起こって以降日本史上最大にして最後の武士による内乱。
- ・ 西南戦争の際にはスナイドル銃という銃が主に使用されここでもやはり銃器の差により新政府軍が勝利西郷隆盛は49歳にしてこの世を去る。

- ・ 1880年（明治13年）陸軍少将の村田経芳(つねよし) によって設計された。

村田銃が日本陸軍で初めて制式された**国産小銃**。

- ・ フランスのグラール銃、オランダのボーモン銃を参考。

十三年式村田銃

1885年（明治18年）に改良十八年式村田銃

1889年（明治22年）には無煙火薬、連発式

二十二年式村田連発銃

- その後日本は欧米の先進国と対等な地位を目指し
不平等条約の改正を急ぎます。

1894年（明治27年）に日英通商航海条約→締結
領事裁判権を撤廃

- これを機にその他の国とも条約改正を実現し
近代法治国家のとして認められる。
- 同年に日本は清と朝鮮を巡って日清戦争が勃発
日本は勝利

- 10年後の1904年（明治37年）

ロシアとの間に日露戦争が勃発

日本軍が優位に戦いを進める。

結果的にはアメリカの仲介によりポーツマス条約締結

日本の勝利で幕を閉じる。

- その日露戦争でロシア軍使用したのが

マキシム機関銃と呼ばれる **マシンガン** を大量に投入。

当時毎分600発撃てるというのはかなり革新的な技術。

機関銃

自動装てん式銃（セミオートマチックライフル）

連続して射撃できる自動銃（オートマチックライフル）

小型の自動式拳銃

銃器の近代化

- ・ 1909年（明治42年）にハルピン駅にて**伊藤博文**が暗殺時

FN ブローニングM1900

世界初の量産のスライド式自動拳銃

- 1932年（昭和7年）5月15日
当時内閣総理大臣であった犬養毅
銃剣を武装した
海軍の青年将校によって襲撃 殺害。
- 銃剣は1897年（明治30年）に陸軍で採用され
第二次世界大戦における日本の敗戦まで
型式を変えながら採用されつづけた。

- ・第二次世界大戦の敗戦を機に日本軍が解体

1952年（昭和27年）国内保安のための武装組織

警察予備隊を改変して保安隊が発足

- ・そしてその2年後の1954年（昭和29年）自衛隊が組織

- ・さらにその3年後の1955年7月4日

「銃砲刀剣類等所持取締令」は改正公布され

空気銃が許可制になり飛びだしナイフの所持が禁止